

# ミステリ読書案内

2024. 1. 15 発行元

第544号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 森谷明子「星合う夜の失せもの探し」

今回は「図書館ミステリ」特集である。7月に東京創元社から出た森谷明子の『星合う夜の失せもの探し 秋葉図書館の四季』などを取り上げる。図書館が更に存在感が増すようにという願いをこめて…。

### 「秋葉図書館」シリーズ

『秋葉図書館の四季』シリーズは『れんげ野原のまんなかで』がスタートで、次が『花野に眠る』。本書が三冊目に当たる。

東京から列車で二時間くらいの場所にある小都市の図書館。本書の最終話『人日』には、開館時の苦労話が語られている。館長の田中と能勢と日野が最初の本の選定に四苦八苦する様子…。四万冊以上を決める作業は考えただけでも大変。

新規購入本のフィルム掛け、ラベル貼りなどは業者に委託するようだが、寄付された本となると…。

### 図書館を巡る人間模様

シリーズが進むにつれて図書館司書や職員が中心のストーリー展開ではなく、そこにやってくる人達の人間模様にメインが移ってくる。第一話の『良夜』や第二話の『事始』は最近離婚したばかりの夫婦と中学生の男の子が登場する。

この男の子・佐由留は本書の題名

に結び付く第五話『星合』の中心人物にもなっている。長期休みに友達と一緒に秋葉の祖父母の家に泊まりに行き、夜は星の観察をしながら過ごすのだが…。

「失せもの」は曾祖母が残した鍵の掛かった文箱に託された思いのこと。図書館の協力を得ながら解き明かした結果は？

### たくさんの本が取り上げられる…

第一話ではクリスティの『ヘラクレスの冒険』が大きな役割りを果たす。エルキュール・ポワロの「エルキュール」の元は「ヘラクレス」なので…。第二話は『風と共に去りぬ』が取り上げられる。映画と原作の本とはかなりの違いが…。

本好き人間の書いた文には紙の本への愛着が溢れている。子どもの頃から読み続けてきた本へと次々連想が広がっていく。また、本書に登場してくる司書の人達の知識量も並大抵ではない。『枕草子』の内容も、短歌や俳句、季語に関する理解も持っていないくは…。

### 森谷明子・作品リスト

1. 千年の黙 異本源氏物語
2. れんげ野原のまんなかで
3. 七姫幻想
4. 深山に棲む声
5. 矢上教授の午後
6. 葛野盛衰記
7. 白の祝宴 逸文紫式部日記
8. 緑ヶ丘小学校大運動会
9. 望月のあと 覚書源氏物語『若菜』
10. FOR RENT 空き室あり
11. 花野に眠る 秋葉図書館の四季
12. 春や春
13. 南風吹く
14. 矢上教授の「十二支考」
15. 涼子点景 1964
16. 清明変生
17. 星合う夜の失せもの探し

これからの社会における図書館の役割り、あり方にも結び付いていくものなのかもしれない。過去に積み上げられてきた知識の数々が未来を切り開くヒントになっていければ…と思うのだ。

### 森谷明子の作品群は…

上の囲みの中に森谷明子の作品を並べてみた。私が読んでいるのはごくわずか。6冊。中にはミステリ・テーマではない作品もあるように見受けられる。歴史もの絡みがレベルが高いか…。

## 緑川聖司「晴れた日は図書館へいこう 物語は終わらない」

こちら「図書館ミステリ」である。11月にポプラ文庫ピュアフルから出た本。シリーズ4冊目になる。帯には「感動の完結巻」と書いてあるが、主人公の茅野しおりが小学校六年生になって「小学校編は完結」のようにも受け取れる。小学校高学年くらいから読める本の設定なのだが、大人が読んでも十分に楽しめる。そこがこの作家・緑川聖司の上手なところ。「日常の謎」といい、ストーリーの展開・構成とよく考えられている。6編を集めた短編集。解説が大崎梢で、森谷明子、緑川聖司と並べると「本好き・図書館好き」が勢揃いした感がある。

第一話『二冊の本』は、事故で亡くなった母親が前日に息子に薦めようとした本は何だったかを、わずかな手掛かりを元に探す内容を含んでいる。(他の謎も組み合わせられているが…) このシリーズでは誰が名探偵という形ではなく、みんなで知恵を集めて考える流れが多い。第二話『迷子の王国』は、探している本が所定の位置になく、まったく別の棚に押し込められているのを発見する出来事が連続して起きる話。誰が何のために…。図書館を巡る人間関係が描き出される。本の後半になると、しおりとお母さん、お父さんの関りが中心に入ってくる展開になる。第五話『物語は終わらない』では、しおりが母親が担当している『くもみね通信』に「おすすめ本」の原稿を載せる話になる。図書館に飾られた七夕の短冊に書かれた言葉の謎とともに…。